

令和元年度 第2回産業振興審議会 会議録

1. 日 時 令和元年9月24日(火)午後6時30分～午後8時00分
2. 場 所 市庁舎GF 会議室A・B
3. 出席者 委員(会長) 習志野商工会議所 高橋 正英 氏
委員(副会長) 習志野市商店会連合会 鈴木 和弘 氏
委員 千葉みらい農業協同組合 織戸 淳也 氏
習志野市農業士等協会 渡辺 勇 氏
習志野市工業地域団体連合会 高見 賢一 氏
習志野市まちづくり観光推進協議会 市川 隆子 氏
日本大学生産工学部 西澤 一友 氏
東邦大学理学部 久保田 宗一郎 氏
千葉工業大学工学部 鎌倉 浩嗣 氏
市民 長谷川 丈雄 氏
市民 荻野 みゆき 氏
市民 前田 陽子 氏
千葉工業大学副学長 鎌田 元弘 氏

オブザーバー 習志野商工会議所 山野井 武 氏
事務局 協働経済部 部長 片岡 利江
協働経済部 次長 根本 勇一
協働経済部(産業振興課) 副参事(産業振興課長) 奥井 良和
協働経済部(産業振興課) 主幹(係長) 忍 貴弘
係長 千葉 義則
係長 藤島 明子
主査 米倉 富雄
主任主事 米納 祥
主事補 佐古 大輔

4. 会議の概要

1) 会議録署名委員の選出

会長の指名にて高見委員と市川委員が会議録署名委員となった。

2) 諮問書手交

事務局より、高橋会長へ諮問書を手交。

3) 審議の概要

■次期習志野市産業振興計画の策定について

【事務局】

本日の審議事項は、「次期習志野市産業振興計画について」とさせていただきます。

前回の会議において、委員皆様から次期計画の策定に向けた第一段階として、現計画の内容や進捗状況等について、皆様より意見をいただいたところである。

今回、次期産業振興計画のたたき台を示し、現計画の策定時と同様、意見を伺いながら進めたいと考えている。審議のほどお願いしたい。

【鎌田委員】

4 ページの「大学生を中心とした若者の流出防止」の表現が不適切ではないのか。入学希望者が減る可能性があるので、大学側からすると迷惑である。

また、定住促進などの知恵のある表現をしていただきたい。

【事務局】

表現については、検討させていただく。

【渡辺委員】

20 ページの「農業地」について、台風15号により千葉県に大きな被害があったので、災害は必ず起こるという想定をしてほしい。

また、県の農業担当部署と市の農政が連携をして、災害に強い農業施設への補助金や指導をしてほしい。

【事務局】

台風15号により、農業以外にも被害があった。今後対策は必要と考えるが、計画に含むかは、検討させていただく。

また、県の農政担当部署と協力して、補助金の情報共有をする。

【渡辺委員】

ハウスをパイプで作れば、災害の対象になってしまう。お金を費やしても被害は受けてしまうので、研究をして災害に強いパイプハウスを作成してほしい。

【久保田委員】

25 ページの「PDCAサイクル」について、最近は様々なところで使用されている。大学でも、委員会などで提案されている。

提案者と結果をチェックする側が同じだと、自己満足になる。そうなるとPDCAサイクルを盛り込む意味がない。提案者がプランを立てて、実行後チェックをして、客観的に見られるところを設定すべき。計画に含められないか。

【事務局】

御指摘のとおり、PDCAサイクルは妥当性の確保が課題であると認識している。

現在は、各担当に客観的に評価できるようにしてもらうことと、審議会で参加者にご意見をいただくことを2本の柱にしている。適切な評価ができるように検討させていただく。

【久保田委員】

19 ページの「魅力ある商店街づくりの推進」について、台風15号により千葉県では、停電になったところとなっていないところがあった。印西市は住宅地の電線を地下に埋めたため、停電しなかった。お金がかかる話だが、検討してはどうか。

谷津や大久保では、いかにも切れそうな電線が多い。安心したまちづくりをするために着手すべき。

被害のあった市を参考にして、商店街の項目に電線の安定供給を含んでほしい。

【事務局】

電線の地中化は、まちづくりという大きな部分である。市内では奏の杜が、地中化を取り入れている。

災害は想定外ではなく、想定内の話になっている。これまでの計画に災害に関する記載はなかったと認識している。

【市川委員】

16 ページの「観光業」という記載について、あえて業としたのか伺いたい。

【事務局】

本計画において、商業、工業、農業と並べる中で、それらに合わせる形で観光業と記載した。業種と受け止められてしまったということで、表現方法を検討させていただく。

【市川委員】

16 ページの「観光まちづくり」という記載について、今までは「まちづくり観光」だが、変更した意図を伺いたい。

【事務局】

現行計画の 42 ページでは「まちづくり観光」としている。習志野市は、魅力的なまちづくりを進めて、多くの人に来ていただくことを念頭に置いているため、「まちづくり観光」としていた。しかし、国土交通省のガイドラインなどでは「観光まちづくり」と表現されており、意味合いには違いが無いことから、「観光まちづくり」に合わせた。まだ担当でも悩んでいるところなので、御意見をいただきたい。

【前田委員】

市農業の振興について、現在鷺沼にある市民農園に開発が入ると聞いたが、どうなるのか。

【事務局】

現在、地権者が勉強会を開催している。また、準備会が設立された。習志野市では現状都市政策部門が中心となっている。鷺沼のまちづくりの中で議論する。

【鎌田委員】

気候変動、環境問題、働き方改革、外国人労働などと議論すべき柱がたくさんある。その中で産業振興計画の柱建てが前回と同じでいいのか。もっと深刻に捉えるべきことがある。

また、キャッチフレーズが情緒的ではないか。もっと戦略が打てるようにすべき。大きく変わることを柱にすべき。もっと戦略が見えるように、新たな軸を含めては。

【事務局】

今回の計画は、全体としては現行計画を踏襲しつつ、時代の変化等に応じた見直しを行ったものとしている。総合目標はビジョン的なものであり、戦略としての具体的な目標ではなく、市民とイメージを共有するために設けている。具体的な内容については、基本指針に基づいて、方針ごとに検討させていただく。

【事務局】

指標などを掲げると、総合目標が見えてくる可能性がある。事務局の書き込みが足りなかった。

【長谷川委員】

6 ページの「労働環境」について、70 歳までの就労機会確保とあるが、これからさらに高齢化して、70 歳を過ぎても働きたいという人が増えるので、表現を考え直してほしい。

【事務局】

骨太の方針 2019 からの引用であり、決して 70 歳までしか支援しないという意味合いではないが、検討させていただく。

【長谷川委員】

失業者、生活保護を申請されている方などの情報について、産業振興課以外の市役所内での部署との共有し、連携してほしい。

【事務局】

必要なことであれば、担当で情報共有し、連携して対応している。
市役所全体で共有すべき情報はプロジェクトを組んで、共有している。

【事務局】

庁内に限らず、関係機関との連携に関しては、生活相談課、ふるさとハローワークならしの、ハローワーク船橋、地域若者サポートステーションなどが直接やりとりをしながら支援をしている。

障がい者の雇用や就労に関しては、産業振興課の職員も障がい者地域共生協議会の委員として参加しており、そこで意見交換や情報共有をしている。

【長谷川委員】

習志野商工会議所で、平成 15 年から行っている創業者の支援について、支援した創業者の現在や規模などをデータとして情報公開してほしい。

【事務局】

現在、市の創業支援としては、習志野商工会議所に委託する形で「ならしの創業塾」を行っているところだが、本日、創業塾の受講者のデータは用意していない。

ただ、これについても、追跡調査をしているのは産業競争力強化法に基づく特定創業支援事業として認定を受けた以降のものだけで、それ以前のものについては把握できていない。把握している分については、次回に資料を用意する。

【長谷川委員】

芝園、茜浜地域に木々が多い。市役所が植えるように指示しているのか。
また、産業振興課は関与しているのか。

【事務局】

企業に対して、緑化計画、工場立地法で義務付けている。

【事務局】

工場を建てる場合は、企業が市役所の様々な部署と開発協議をする。産業振興課はその中の1つとして、工場立地法に基づいて緑地の確保をしていただいている。
開発協議は各課と連携している。

■今後の日程について

【事務局】

次回、第3回の会議については、10月下旬頃の開催を予定している。
この会議において、本日の御意見等を踏まえた素案をお示ししたいと考えている。

【高橋会長】

以上をもちまして、令和元年度第2回習志野市産業振興審議会を閉会いたします。皆様、どうもありがとうございました。

議事録署名人 _____

議事録署名人 _____